



55th

公益社団法人
吹田青年会議所
創立55周年記念誌



Junior Chamber International Suita 55th Anniversary

TRAINING

地上最大の宝は個々の人格にあり

修練

SERVICE

社会への奉仕は人生最大の仕事である

奉仕

FRIENDSHIP

友情は国家主権に優先する

友情

	JCの三信条	1
	目次	2
	JCI Creed・JCI Misson・JCI Vision・JC宣言・綱領	3
	JC ソング・若い我等	4
ご挨拶 ご祝辞	公益社団法人吹田青年会議所 第55代 理事長	5
	大阪府知事	6
	吹田市長	6
	吹田商工会議所 会頭	7
	公益社団法人日本青年会議所 2024年度 会頭	7
	公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会 2024年度 会長	8
	公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 大阪ブロック協議会 2024年度 会長	8
	一般社団法人箕面青年会議所 第59代 理事長	9
	香港浩洋青年商會 (JCI Ocean) 会長	9
	一般社団法人若狭青年会議所 第54代 理事長	10
	吹田JCシニアクラブ 会長	10
歴 史	歴代理事長 初代～第49代	11
	歴代理事長 第50代～第54代	13
	60周年に向けた中長期ビジョン	18
対 談	「第50代から第54代 歴代理事長対談」	19
	「(一社)若狭青年会議所との友好青年会議所協定締結について」	21
メンバー	メンバー紹介	23
	編集後記・記念誌メンバー	25

The Creed of Junior Chamber International

We Believe :

That faith in God gives meaning
and purpose to human life ;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations ;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise ;
That government should be of laws
rather than of men ;
That earth's great treasure lies in
human personality ; and
That service to humanity is the best
work of life.

我々はかく信じる：

真理は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家による統治を超越し
公正な経済は我々の自由な経済活動に
よってこそ果たされ
政府には人治ではなく法治が必要であり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最大の使命である

JCI Misson

To provide leadership development
opportunities that empower young
people to create positive change.

青年会議所は、青年が社会により良い変化を
もたらすためにリーダーシップの開発と
成長の機会を提供する

JCI Vision

To be the foremost global network
of young leaders.

青年会議所が、若きリーダーの
国際的ネットワークを先導する組織となる

JC 宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱領

我々 JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

JC ソング

作詞：松田 基 / 作曲：奥山 勝太郎

1. JC JC JC

せ かい むす ちから
世界を結ぶ 若き団結

あたら しょ のぞみ
新しき世紀の 希望となりて

とわ さか
永遠に繁栄えん

われら つど
我等の集い

2. JC JC JC

ほうし りそ う もと
奉仕の理想 探究めつつ

く に あゆみ ちから
祖国の進歩の 力となりて

さきが われら つど
先駆けゆかん 我等の集い

若い我等

作詞・作曲：入江 義朗

1. 若い我等が 手を取り合って

進む行く手の 青い空に

輝く JC 明るい希望

足なみをそろえて 行こうじゃないか

2. 世界を結ぶ 若さの力

互に尽くす 楽しさこそ

JC の理想だ 新しい日だ

足なみをそろえて 行こうじゃないか

3. 若い我等の 心を集め

つくる集いに 未来をかけて

JC の仲間は 皆信じあう

足なみをそろえて 行こうじゃないか





大枝 拓人

公益社団法人吹田青年会議所 第55代 理事長



1970年8月22日、「人類の進歩と調和」をテーマに我々が暮らすまち吹田で日本初の万国博覧会が開催された年に、吹田青年会議所は箕面青年会議所の温かい友情と熱意溢れるスポンサーシップにより、全国で436番目の青年会議所として認証され、本年創立55周年を迎えるに至りました。

永きにわたり、吹田青年会議所の活動にご支援・ご協力を賜りました地域・各種団体・行政・企業の皆様、各地青年会議所の同志たち、そしてこの55年間吹田のまちに対する熱い情熱を絶やすことなく当会の礎を築いてこられた先輩諸兄に心より感謝し、厚く御礼申し上げると共に、本日、その皆様と共に創立55周年記念式典を開催できること、メンバー同喜びに満ち溢れています。

創立以来、我々は「明るい豊かな社会」の実現に向け、「修練・奉仕・友情」の三信条を胸に仲間と共に活動し、この5年間は55周年に向けた中長期ビジョン「本質をみつめ、未来を創造する」を元に、過去を振り返り、今を見つめ、ヒト・モノ・コトの本質を見極め、未来を先見しながら、仲間と共に歩みを進めて参りました。

本年は「共に進もう～1歩前へ～」をスローガンに掲げ、青年会議所活動だけでなく、仕事・プライベートにおいても誰もが失敗を恐れず今より1歩前へ挑戦

できる。挑戦しようとする仲間と支え合いながら共に1歩を踏み出す。そんな1年を目指し活動しております。

2020年1月に初めての国内感染者が発見された新型コロナウイルス感染症から4年が経過し社会は大きく変化しました。リモートワークが推奨され、新たな働き方が生まれた一方、対面でのコミュニケーションの機会が減少したことにより、若い世代を中心に人間関係構築を苦手とする人が増加しています。そこで我々は「明るい豊かな社会」の実現に向け、新たに60周年に向けた中長期ビジョンとして「新たな希望～create the future～」を掲げ活動して参ります。吹田のまちの人々がヒト・モノ・コトで繋がることで助け合いが生まれ、より吹田を誇り、自慢できるよう我々が「修練・奉仕・友情」の三信条の元、責任と自覚を持ち率先して取り組むことで皆様と共に歩みを進めて参ります。

結びになりますが、皆様の益々のご多幸とご健勝を心よりお祈りすると共に、これからも続く我々の運動・活動に対してより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。創立55周年記念式典のご挨拶とさせていただきます。

吉村 洋文

大阪府知事

公益社団法人吹田青年会議所が創立55周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また皆様には、日頃から大阪府政の推進に格別のご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

吹田青年会議所の皆様におかれましては、1970年の創立以来、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、社会的課題の解決に積極的に取り組まれてこられました。

また、55周年に向けて、「本質をみつめ、未来を創造する」を中長期ビジョンに掲げ、青少年育成事業や国際交流事業などの奉仕活動により、社会の発展に貢献されています。長年にわたる皆様のご尽力に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

開幕まで1年あまりとなりました2025年大阪・関西万博は、世界の英知を結集し、地球温暖化や食料危機、貧困問題など、多岐にわたる世界の課題解決への針路を示し、未来に夢と希望を与える「未来への羅針盤」となるものです。

万博をインパクトに、府市一体の成長戦略のもと、成長軌道をさらに高みに引き上げ、世界の中で存在感を発揮し、都市間競争に打ち勝つ大阪をめざしていきます。

皆様には引き続き、府政へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、この55周年を節目として、吹田青年会議所がますます発展されますよう、また、皆様方のご健勝、ご活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



後藤 圭二

吹田市長

公益社団法人吹田青年会議所が創立55周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。また、記念式典を開催されるにあたり、ご尽力されました役員の方々や会員の皆様に深く敬意を表します。

貴会議所におかれましては、長年にわたり、若い力による強いリーダーシップにより多彩な取組を展開され、魅力的なまちづくりや地域での交流の促進に多大なご貢献をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。また、すいたフェスタの開催にあたっては、前身の吹田まつりから長年にわたって貴会議所にもご参画いただき、ご尽力を賜っておりますことに重ねてお礼申し上げます。

本市におきましては、市民の皆様が愛着と誇りを持てる魅力あるまちづくりに努めてまいりますので、今後様々な場面でより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、貴会議所の今後ますますのご発展と、会員・OBの皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



ご祝辞

柴田 仁

吹田商工会議所 会頭

このたび、公益社団法人吹田青年会議所が創立55周年の迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴所は、1970年の大阪万博の開催直前にこの吹田の地で誕生しました。立ち上げ時の取り組みは、千里丘陵で開催された万博にちなんだ事業がであったとお聞きしています。そして、2025年の大阪・関西万博の開催が直前に迫っている中、55年の節目を迎えられます。

私ども吹田商工会議所も、地域の総合経済団体として中小企業の活力強化とともに地域の活性化に取り組んでいます。人材面では多くの青年会議所OBの方々当所の役員・議員に就任し、吹田商工会議所の活動を支えて下さっています。今後とも「よきパートナー」として、地域の発展繁栄のために共に歩んでいくことを望んでいます。

これからも「吹田のまち」は大きく変貌していきます。その中で、皆様方の若い力を発揮する場はどんどん増えてまいります。若きリーダーとして研鑽を積み、地域の発展に貢献していただきたく存じます。

最後になりましたが、貴所が創立55周年を機に、益々ご発展されますことをご期待申し上げますとともに、皆様方のご活躍・ご健勝を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



小西 毅

公益社団法人日本青年会議所 2024年度 会頭

公益社団法人吹田青年会議所の皆様、創立55周年式典がこのように盛大に開催されましたこと心よりお喜び申し上げます。

私は本年度、公益社団法人日本青年会議所第73代会頭の職を務めております。小西毅と申します。また日頃より公益社団法人日本青年会議所に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年度、大枝拓人理事長のもと、スローガンに「共に進もう～1歩前へ～」を掲げ、明るい豊かな社会を実現するため、失敗を恐れず誰かのために一生懸命に挑戦し続けることで、地域に影響を与える運動を推進されていることと思います。今後も組織と文化を次代へ継承するための節目の年として大枝拓人理事長の掲げる運動が地域の発展に寄与され、メンバーの成長へと繋がりますことを、心よりお祈り申し上げます。

日本青年会議所では、「親切心が織りなす豊かさで笑顔あふれる未来へ」を基本理念に掲げ、一人ひとりの会員が優れたリーダーシップを開発することを目的とし、素朴で純粋な親切心をもって、各地の皆様と手を取り合い、明るく豊かな社会を実現させるために様々な運動を展開しております。引き続き深いご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、日本青年会議所を大いにご活用いただければ幸いです。

結びに、公益社団法人吹田青年会議所のさらなるご発展と地域において素晴らしい運動の成果を出されること、そして、ご参加いただきました皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。本日は55周年式典のご開催誠にありがとうございます。



東野 篤史

公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会 2024年度 会長

この度、公益社団法人吹田青年会議所が創立55周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。また、平素は近畿地区協議会の運動にご理解、ご協力を賜っておりますことに、深く感謝申し上げます。

貴青年会議所は1970年の創立以来、吹田市を明るく豊かなまちにするために活動を重ねてこられました。長きにわたって、地域の発展と活性化に大変多くの役割を担ってこられたことに、心から敬意を表します。本年度は大枝理事長が掲げられた「共に進もう～1歩前へ～」というスローガンのもと、自己成長と地域への貢献に邁進されていることと存じます。55年という歴史の重みを受け止めつつ、一歩踏み出し挑戦しようとする姿に、大きな期待を抱いております。

こうした姿勢は、時代を切り開く我々青年のあるべき精神であります。2024年度近畿地区協議会は、“Let it roll !! ～想いをカタチに～”をスローガンに掲げ、貴青年会議所が地域や市民に寄せる想いの詰まった運動を支援するべく連絡調整機関としての機能を充実させる所存です。青年としての英知と勇気と情熱を結集し、共に地域を、日本を盛り上げてまいりましょう。

貴青年会議所がこの節目を起点とし、地域に無くてはならない組織として、今後ますます活躍されることを確信しております。結びに、会員各位と先輩諸氏、貴青年会議所に関わる全ての方のご健勝と、吹田のまちのさらなるご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



野村 将一

公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 大阪ブロック協議会 2024年度 会長

この度、公益社団法人吹田青年会議所が創立55周年を迎えられますことを、心からお喜び申し上げます。平素より公益社団法人日本青年会議所近畿地区大阪ブロック協議会の運動に多大なるご理解、ご協力をいただいておりますことに深く感謝致します。

本年度、公益社団法人吹田青年会議所が理事長、大枝拓人君のもと「共に進もう～1歩前へ～」のスローガンを合言葉に、明るく豊かな社会の実現するため、また地域の様々な課題を解決するために、責任世代のリーダーとして挑戦され、持続的なインパクトを地域社会に与える運動が展開されますことを、改めてご期待申し上げます。新たな挑戦と共に進む、貴青年会議所に、心から敬意を表するとともに、共に一歩前へ歩めるご支援をさせていただきます。

この55年で社会は大きく変革し、少子高齢化、地域経済の衰退、そして国際的な地位低下が深刻な問題となる中で、その持続可能性が疑われています。そのような中、私たち青年に必要なことは、従来の日本が目指してきた「経済を良くすることで社会を良くする」という考え方から「社会を良くする事で、青年経済人である私たちが成長し経済を良くする」という発想の転換を行い、より良い社会の実現に向けて青年経済人として社会課題の解決に取り組む必要があると考えます。

本年、公益社団法人日本青年会議所近畿地区大阪ブロック協議会では「共に利を創り和を以て輝く未来都市大阪へ」をスローガンに掲げ各LOMやメンバーとの和を重んじ地域社会との利を創造し共に明るい豊かな社会の実現に向けた運動を展開してまいります。今後とも変わらぬご理解とご協力をいただけますと幸いです。結びに、貴青年会議所の益々のご発展と、55周年の歴史に携わり、紡いでこられたすべての方のご多幸をご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



ご祝辞

山中 ゆめみ

一般社団法人箕面青年会議所 第59代 理事長

公益社団法人吹田青年会議所が創立55周年を迎えられることを、スポンサーJCを代表して、心からお祝い申し上げます。

貴青年会議所は、吹田の地で日本万国博覧会が開催された1970年に、全国で436番目の青年会議所として誕生し、今日まで地域の発展のために活動を紡いでこられました。単年度制であり、40歳で必ず卒業という年齢制限もある団体が、半世紀以上も存続できるのは当たり前のことではありません。変化し続ける時代の中でどんな時も歩みを止めることなく、運動を展開するために尽力されてきた諸先輩方、そして、現役会員の皆様のためまぬ努力に深く敬意を表します。

本年度は大枝理事長が掲げられました「共に進もう～1歩前へ～」のスローガンのもと、56年目の新たな一歩を踏み出す節目の1年です。思い描くビジョンに向かい、大枝理事長のリーダーシップのもと、貴青年会議所が地域における存在価値を高め、地域と共に持続可能な発展を遂げられることをご期待申し上げます。

結びに、この55周年を契機として貴青年会議所会員が一致団結し、オピニオンリーダーとしてますます地域に寄与されますとともに、先輩諸氏、現役会員皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



Marissa Choy

香港浩洋青年商會 (JCI Ocean) 会長

公益社団法人吹田青年会議所の創立55周年を迎える今年、私、浩洋青年商会の全会員を代表して、皆様に最も熱烈な祝福と誠実な祝福の言葉をお伝えいたします。

貴青年会議所は、その独特な精神と卓越した成果により、私たちの姉妹組織となりました。これは深い友情と互いの支え合いの結びつきであり、私たちが共に立ち向かうさまざまな挑戦を可能にしています。過去の数十年を振り返ると、私たちは多くの忘れられない瞬間を共有してきました。交流と協力を通じて、ビジネス、文化、教育などの分野で深い協力の基盤を築きました。私たちの会員は常にお互いに刺激し合い、共に学びながら、自身の専門知識と創造力を向上させています。同時に、私たちは積極的に社会福祉活動に参加し、社会に恩返しし、弱者を支えることで、若者の起業家精神を示しています。

これからも私たちは手を取り合って前進し、コミュニケーションと協力を強化し、会員間の相互利益を促進し、影響力と協力の範囲を拡大し、両団体の発展と繁栄に努め、ビジネスの機会と成長の場を創出していきます。

最後に、貴青年会議所の全会員の皆様に心から感謝を申し上げます。皆様の努力と無私の奉仕のおかげで、私たちの友情はこれほど豊かな成果を収めることができました。姉妹組織としての精神と友好的な協力のもと、共により良い未来を目指して努力しましょう！

貴青年会議所の創立55周年記念式典が盛大に成功することを心からお祈り申し上げます。



On the occasion of the 55th anniversary of the establishment of JCI Suita, I, on behalf of all members of the JCI Ocean, would like to extend our warmest congratulations and sincere wishes to you.

JCI Suita has become our sister organization through its unique spirit and outstanding achievements. It is a bond of deep friendship and mutual support that enables us to stand together and face various challenges. Looking back at the past years, we have experienced many unforgettable moments together. Through exchanges and collaborations, we have built a solid foundation for cooperation in business, culture, education, and other fields. Our members often learn from and inspire each other, continuously enhancing their professional competence and innovative abilities. At the same time, we actively participate in social welfare activities, giving back to society and caring for the underprivileged, demonstrating the leadership spirit of young entrepreneurs.

In the days to come, we will continue to work hand in hand, strengthen communication and cooperation, promote mutual benefits among members, expand our influence and scope of collaboration, and strive for the development and prosperity of both organizations, creating more business opportunities and room for growth.

Finally, I would like to express my heartfelt gratitude to all the members of JCI Suita. It is because of your hard work and selfless dedication that our friendship has achieved fruitful results. Let's move forward together! One step forward, for a better future!

Wishing a great success of 55th anniversary JCI Suita!

水江 大地

一般社団法人若狭青年会議所 第54代 理事長

この度、公益社団法人吹田青年会議所が創立55周年の節目を迎えられますことに、心よりお喜び申し上げます。そして、創立から今日に至るまでにご尽力されて来られました先輩諸兄姉の皆様のご功績に敬意を表するとともに、創立以来の志を受け継ぎ、自己の修練と社会への貢献に邁進されております、メンバーの皆様にお祝いを申し上げます。

本年度、公益社団法人吹田青年会議所におかれましては、第55代理事長、大枝拓人君が掲げられた「共に進もう～1歩前へ～」のスローガンのもと、メンバー一丸となり、明るい豊かな社会の実現にむけて精力的に活動され、地域にインパクトを与え続け、今まで以上に地域から必要とされる組織へと飛躍されますことをご期待申し上げます。

我々、一般社団法人若狭青年会議所と公益社団法人吹田青年会議所は、2023年に吹田青年会議所より、若狭と一緒に青少年事業をしたいと、お声がけをいただき、ともに若狭の地で青少年育成事業をさせていただいたことから、交流が始まり、友好JC締結につながりました。お声がけいただいた当初は我々としても初めてのことで、戸惑いが多く、本当にLOMの垣根を越えて一緒に事業をできるのだろうか。と半信半疑でしたが、実際に吹田青年会議所のメンバーの皆様との交流を重ねていくにつれて、ともに活動することの楽しさや新たな価値観を感じることができました。こうした交流を通して、切磋琢磨できる仲間ができたことを大変うれしく思います。

創立55周年を迎えられてもなお、新たなネットワークをつくることができるのが青年会議所の最大のメリットです。これからも切磋琢磨し、時にはよき相談役としての関係を築いていきたいと思っております。

結びになりますが、公益社団法人吹田青年会議所の益々のご発展と先輩諸兄姉の皆様、並びに現役メンバーの皆様のご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



井上 雄介

吹田JCシニアクラブ 会長

1970年4月、52名の青年が一致団結し、わが郷土吹田市発展のために貢献することを決意し、吹田青年会議所の創立を宣言しました。そこから社団法人格の取得、公益社団法人への移行を経て55年の歳月を迎えることになります。その間いずれの年においても、「より明るい」「より豊かな」地域社会の発展を願って青年会議所運動を展開してきました。

創始の志はそれぞれの時代の青年に脈々と受け継がれ、現役の青年たちに引き継がれています。そこに共通して変わらないものとは何か。Jaycee（青年会議所メンバー）は、自らを厳しく訓練し、常に市民と共通の基盤に立ち、正しいものの見方、考え方をもって何ものにも屈しない共通の志を持っていることです。現役諸君におかれましては、時代が進んでもその志を次代に引き継ぎ、青年会議所運動を通してよりよい地域社会発展に向け、歩み続けてほしいと願っております。

55年間それぞれの年で時代の先駆者として青年会議所運動を支えていただいた敬愛すべき諸先輩方、ご協力賜った吹田内外の企業、各種団体行政機関、各地青年会議所の皆様に対しまして、心からの感謝を申し上げます。いつの時代も、青年がその英知と勇気と情熱をもって青年会議所運動に打ち込めるよう、シニアクラブは影の応援団として、心からの支援を続ける所存です。





1970

人類の進歩と調和を目指して

初代理事長 木村 俊之



1971

フレンドシップ

2代理事長 曾呂利昌弘



1972

明るく豊かな地域社会づくり

3代理事長 井上 義信



1973

JC運動は市民のなかで

4代理事長 増田 泰士



1974

見なおそう、見きわめよう、
そして自ら行動しよう

5代理事長 関山 守洋



1975

挑戦しよう!! 今こそ地域にJCを

6代理事長 井上 暎夫



1976

磨けJAYCEE 活かせJC

7代理事長 加野 元



1977

考え、行動し実現しよう
素晴らしいJC、明るい社会

8代理事長 藤満 宣夫



1978

広げようJCの輪を

9代理事長 瀧川 紀征



1979

躍進と熟成をめざして

10代理事長 川上 浩邦



1980

もっと知ろう人間を 社会を 世界を

11代理事長 関山 正彦



1981

考えよう行動しよう
明るい吹田を市民と共に

12代理事長 成尾 紹雄



1982

自立の心・明日への創造

13代理事長 中川 克



1983

創ろう心豊かな地域社会

14代理事長 堀田 稔



1984

幸福への挑戦
「豊かな心と生きがいを求めて」

15代理事長 安達 昌秀



1985

「団結と躍進」
友情とふれあいの輪を広げよう!!

16代理事長 家村 武志



1986

明日への可能性を求めて

17代理事長 足立 善信



1987

未知への挑戦

18代理事長 柳川 義行



1988

「妥協なきリーダーに」
夢ある未来社会に向けて

19代理事長 井村 卓治



1989

ふりかえろう 原点を
進もう 明日に向かって

20代理事長 木村 義雄



1990

井の中の蛙(かわず)大海も知ろう

21代理事長 西川 哲成



1991

限りない未来・それは青年の夢
—明日の地域社会のリーダーに—

22代理事長 橋本 浩



1992

「創造ろう 未来のまち・ひと・ゆめ」
—一心で築く新しい吹田—

23代理事長 山崎 睦治



1993

君の笑顔に逢いたい

24代理事長 曾呂利晴彦



1994

開け広がれJC運動

25代理事長 大枝 正人



1995

熱き燃ゆる想いを地域に

26代理事長 淀井 満福



1996

「リーダーシップ」一育もう地域の絆一

27代理事長 前田 健治



1997

「夢をかたちに」
一語ろう夢を 続けよう夢の運動 市民と共に一

28代理事長 橋本 徹也



1998

「21世紀へTAKE A STEP」
一育もうフレンドシップ一

29代理事長 木田 昌宏



1999

「まちびとがここで築く新時代」
～ここはいつもグローカリズム～

30代理事長 西形 方良



2000

まちのハーモニーを奏でよう
一まちづくりネットワークの構築へ向けて一

31代理事長 石川 勝



2001

「たすけあいの心」組織へそして地域へ
～力の根源は人間力にあり～

32代理事長 尾形 丈夫



2002

まちに笑顔を、地域にゆめを
「こころ社会再創造物語」

33代理事長 坂本 一成



2003

「感じて 動く」現実を見て夢を捨てるより、
夢を見て現実を試みよう

34代理事長 井上 雄介



2004

「温個知心」個を尋ねて、先人の想(こころ)
を感じ、我々の想(志)を未来へ伝えよう！

35代理事長 橋本 幸治



2005

情熱が、明日をつくる！

36代理事長 井上 大輔



2006

“妥協なき行動”
～愛する我がまちのために～

37代理事長 橋本 芳信



2007

優しさ溢れるまちへ ～垣根を超えた
理解から生まれる優しさを力に！～

38代理事長 山本 多通男



2008

未来(あした)のために、心をつなぐ！

39代理事長 瓜生 晴彦



2009

Believe Your Possibility
～夢と絆が可能にする、すいたのまちづくり～

40代理事長 瀧川 健一郎



2010

輝く新しい夢へ・・・
～ほほえみ広がるまち吹田の創造～

41代理事長 長井 裕司



2011

誠意工夫
～調和から生まれるコミュニティをつくろう～

42代理事長 堀田 誠



2012

We Have a Dream
～今日よりも明日が理想のまちであるために～

43代理事長 西川 滋夫



2013

感動がひとをつくり
吹田(まち)をつくる

44代理事長 小谷 秀成



2014

報恩謝徳 ～感謝の気持ちを忘れず、
恩に報い、強かにまちづくりを～

45代理事長 田中 敏之



2015

Feel & Move !
～愛されるまち 輝くひとのまち～

46代理事長 権野 結



2016

もっと、愛そう！もっと、超えよう！
～愛情と挑戦がまちの笑顔をつなぐ～

47代理事長 酒 徳 里 麻



2017

活眼を開け！
～後世を先見し、輿論の担い手となるう～

48代理事長 後藤 恭平



2018

face to face ～面と向かって～

49代理事長 中村 昭一



2019

第50代 理事長 岡田 眞里

会員：33名 卒業生：3名

50周年という節目の年でした。長く在籍した先輩の多くが卒業され、3分の2が入会2～3年目のメンバーという状況の中、自分たちにしっかりと「周年」ができるだろうかという不安を持ちつつも、大きな節目に立ち会えた幸運に期待と希望をもって迎えた1年だったと思います。

より良いものを目指すために、「これでいいじゃないか」「いまさらできない」ではなく、「あと一つ工夫できること」「あと一步頑張れること」に挑戦していこうという気持ちを「for the better ～あと一つ、あと一步～」というスローガンに託しました。

for the better

～あと一つ、あと一步～

自分が描いた想定の前に進む努力を会員一人ひとりが積み重ねたこと、そして他人を支える気持ちをもって団結力を発揮できた結果が周年記念式典、周年記念事業、大阪ブロック大会の主管という大きな事業の成功に繋がったと思います。そして、この経験は会員一人ひとりの能力の向上と自信につながったものと確信しております。素晴らしいメンバーに恵まれたこと、そして最後までやり抜いたすべての会員に感謝と敬意を表します。これからもJCI吹田の団結力と一人ひとりの向上心を大切にして、活動していただければと思います。



2019年度ピックアップ事業

◆50周年記念式典

当会は50年という長い歳月をかけて、多くの先輩方が関わり明るい豊かな社会を目指して丁寧の一つずつ想いを込めて歴史を積み重ねてきました。45周年からの5年間「社会のニーズを感じ、地域と共にシナジー効果を生む運動」を展開してきた当会の歴史を振り返るとともに各種団体との中長期的な連携・協力関係を更に深める場、これから先5年で目指す当会のビジョンを発信する場、当会の活動や運動に対する一層の理解を得ることができる場にすることに注力して設営しました。

本来は6月に開催する予定でしたが、式典当日に千里山交番での警察官刺傷・拳銃強奪事件が発生したため、延期という選択をしました。9月に改めて設営となりましたが、会員それぞれが「for the better ～あと一つ、あと一步～」の気持ちを持ち続け、素晴らしい事業になりました。

◆大阪ブロック大会吹田大会

当会にとって、初めての大会主管が大阪ブロック大会です。立候補当時、会員数が減少し、出向をしたがらないメンバーが増えつつありました。出向は、個人にとっても当会にとっても成長の機会となる貴重な経験です。出向を前向きにとらえてもらう手法としてブロック大会の誘致に至りました。多くの会員が本大会で出向の面白さを知り、成長することができました。また多くの新しい仲間ができ、新たな価値観を取り込み、当会への愛情を深める機会にもなりました。

大会の主管を務めるにあたり、「以前、吹田のメンバーにお世話になったので尽力させていただきます」との声を多くいただきました。先輩への感謝の気持ちと共に、これが恩送りなのだ心が熱くなりました。特に北地域のLOMには副主管として多大なる御協力をいただきました。地域の繋がりをこれからも大切に育んでいただければ幸いです。

定例会		事業
1月	新年賀会定例会	
2月	生き方に、仕事に、あと一つ	2月18日 異業種交流会
3月	未来から逆算する学びのカタチ	
4月	公開討論会～次代への挑戦～の振り返り	4月12日 公開討論会 次代への挑戦！ 4月13日 わんぱく相撲 吹田場所
5月	8LOM合同定例会 Road To Goals～目標達成の技術を学ぶ～	
6月	千里山交番襲撃事件発生に伴い、中止	6月13～6月17日 香港浩洋青年商會 来日
7月	共生社会の実現～みんなが生き生きと協和する社会にむけて～	
8月	男性と女性の考え方の違いを知ろう	
9月	OBOG合同定例会	9月8日 創立50周年記念式典 9月23日 大阪ブロック大会吹田大会 9月29日 50周年記念事業 みんなのまち吹田未来万博
10月	4LOM合同例会 SDGsから学ぶ未来	
11月	企業が目指すべき社会型マーケティング	
12月	卒業式並びに褒章授与式	

Partnership

～出会いが人を変え、
人生を変える

2020

第51代 理事長 小川 利幸



会員：37名 卒業生：7名

当会の活動の幅や地域の問題解決のための知見を広げ、人材を育成するためには、事業で取り組む分野の経験や専門知識をもったパートナーが必要です。また、私は青年会議所を通じて出会った方々に公私共に育てていただいたと考えており、このスローガンを掲げました。

2020年度は新型コロナウイルス感染症が流行した最初の年で、緊急事態宣言等で行動が制限され、当初計画した通りの運動発信をすることが難しい年でした。しかし、その分Zoom等のツールを活用した会議や定例会、事業など新しい形の活動や運動発信方法が考案・試行された1年でした。

事業や定例会のリモート開催や、ハイブリット開催、そして緊急事態宣言が解除された時の対面開催など、従前とは違い、多様な形態での開催が想定されました。開催方法をめぐり、何度も議案を作り直してもらった定例会、延期の末に中止になった事業、リモート開催に変更になった事業など様々でしたが、大変な状況に関わらず、運動発信を止めず、一生懸命に取り組んでくれた会員の皆様には、改めて心より感謝致します。

最後にスローガンにも書いている通り、JCには人生を変える出会いが沢山あると私は今でも思っております。当会がより発展し、会員の皆様が良い出会いに恵まれることを祈念致します。

2020年度ピックアップ事業

◆10秒チャレンジ

1月から新型コロナウイルス感染症が蔓延し、3月以降の定例会は中止又は当会初のZoom開催となりました。急速新型コロナウイルス対策委員会を発足させて、情勢にあった事業を実施しました。その一つである「10秒チャレンジ」は、新型コロナウイルス感染症拡大により外出が制限され、在宅時間が増え、やりたいこともできない、そんな日本中の重くなった空気を少しでも明るくしたい、吹田を少しでも晴れやかな気分になりたいと考え、市民にクスッと笑ってもらえる事業を展開したいと考え発案しました。各会員が今まで挑戦していなかったことに真剣に挑戦する姿を撮影し、1か月間にわたり面白おかしく投稿しました。その中でJC仮面というキャラクターも誕生しました。



◆笑顔の花を咲かせよう

新型コロナウイルス感染症感染拡大により生花の需要が激減し、花が廃棄されている事実をうけ、廃棄される花を買取り、会員自らの手で剪定し、花束を作り、吹田市内の幼稚園・小学校へ花束を贈りました。受け取っていただいた学校からお礼のメッセージが届くなど、多くの子どもたち、先生の気持ちを明るくすることのできた事業でした。



◆Hello New Normal! ～地球市民が前向きに生きる為に、新しい日常を考えよう～

関西大学国際部の池田佳子教授にご協力いただき、「ニューノーマルには何が必要になるのか?」をお話いただきました。各国の留学生や海外在住者にも参加していただき、「コロナ禍の今」として各国の現状をお話いただき、情報交換を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で海外との交流が難しい中、その時の最善を考えて実施した公開例会となり大阪ブロック協議会の褒賞において、国際部門の最優秀賞を受賞することができました。



	定例会	事業
1月	新年賀会定例会	1月26日 JCI3セミナー
2月	"非認知能力について親学習体験について"	
3月	市民運動に発展させるための当会の歴史と特性とは?	
4月	JCふし発見	4月23日～5月21日 すいたんマスク
5月	理事長の経験談・懇親会	5月9日～31日 10秒チャレンジ 5月9日～31日 PC寄付事業
6月	Hello New Normal! ～地球市民が前向きに生きる為に、新しい日常を考えよう。～	6月15日～17日 笑顔の花を咲かせよう
7月	デジタルマーケティングについて	
8月	Problem Based teilLeikai ～問題解決型定例会～	
9月	本年度活動報告と今後の活動について	
10月	"地域防災と三助について民間企業による三助の重要性"	10月24日 「笑顔のまち吹田」モザイクアートプロジェクト2020
11月	NATS0-2 (ナッツゼロツー)	
12月	卒業式並びに褒章授与式	

歴
代
理
事
長





2021

第52代 理事長 柳川 潔敬

会員：33名 卒業生：1名

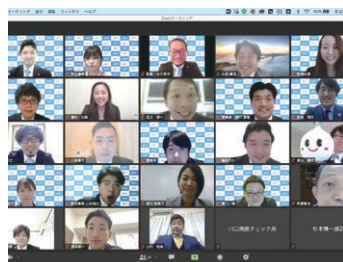


1970年の創立以来「明るい豊かな社会」の実現を目指し、諸先輩方が“想い”を持ってまちづくり運動を展開してこられました。その“想い”も決して自分本位の“想い”ではなく、共にまちづくりを行う市民や行政・企業・教育機関・地域諸団体に“共感”される“想い”であったはずで

す。2021年度は、この“共感”というものを大切にしていこうということで、「Empathy ～共感を生むまちづくり～」というスローガンを掲げ活動しました。また、2021年度は前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年でした。3度の緊急事態宣言により、やむ

なく中止とした事業もありましたし、対面でできた定例会も限られたものとなりました。事業を中止にするのか、Webで開催するのか、対面で開催するのかと毎月のように難しい決断を迫られました。各委員会においても、事業の直前にならないと感染がどのような状況になっているのか分からなかったため、議案作成段階から様々な状況を想定して準備していただきました。

メンバー一人ひとり、大変なご苦労があったかと思いますが、この年の経験はJC活動や社会活動において、それぞれの幅を広げるものになったと確信しております。



2021年度ピックアップ事業

◆Joint Project 2021 to 2022

この事業は当初、当会姉妹JCであるJCI Oceanの仲間が香港から多く来日し、吹田の地でSDGsに沿った事業が実施される予定だったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で来日することができなくなってしまいました。このような状況下でも何かできないかと、本来であれば単年度で完結するJoint Projectを2年にわたる事業とし、2021度はWebで開催しました。内容としては、翌年に向けての事前準備学習(日本主催・香港主催の2回)に加えて、日本の学生と香港の学生の交流の場を設けました。日本主催の事前準備学習では、WEリーグ(日本初の女性プロサッカーリーグ)初代チェアの岡島喜久子氏に講演していただきました。テーマとした「ジェンダー平等」は、日本の学生には馴染みのない難しいテーマであり、また母国語ではない英語でのやりとりは、コミュニケーションをとることを難しくさせるだろうという不安がありました。しかし、参加していただいた学生は、回を追うごとに成長し、香港の学生とのWebによる交流からも大きな成果が見られました。学生たちが、文化の異なる相手に対して一生懸命自分の考えを伝えようと努力している姿を見て、勇気をもらいました。また準備の中で、様々な困難に直面したこともありましたが、当会メンバーのみならず、OB・OGの先輩方やご協力いただいた団体の関係者等、多くの方に支えていただきながら乗り越えることができました。人と人の繋がりがあったからこそ実現した事業だと思います。さらにこの事業は、大阪ブロック協議会の褒賞において、国際部門の最優秀事業賞を受賞することができました。このような状況下で、青少年が海外の学生と交流する事業を実施できたことは、大きな意義があったと確信しております。

歴
代
理
事
長

定例会	事業
1月 新年賀会定例会	
2月 災害時・緊急時の人間の心理・避難所運営シミュレーション	
3月 eスポーツと地方創生	
4月 納税は最大の社会貢献	
5月 8LOM合同例会 Improve Consciousness ～アンコンシャスバイアスへの気づき～	
6月 グローバリズムのその前に・発展途上国から再認識する日本国	
7月 カードゲーム限界都市	7月24日、31日、8月7日
8月 不登校、苦悩する親子の姿から	国際交流事業 Joint Project 2021 to 2022
9月 OBOG合同定例会	
10月 4LOM合同例会 効果的なリーダーシップの発揮の仕方	
11月 温故知新	
12月 卒業式並びに褒賞授与式	



止まない雨はない

～結果を決めて、皆で帳尻～

2022

第53代 理事長 杉本 慎一郎



会員：32名 卒業生：4名

2022年は新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、1年間の活動をすべて対面で行うことができたようになった1年でした。

今でこそどのような年だったのか思い返すことができますが、当初はフェーズが変わったコロナ渦において、地域に潜在している課題が何なのか分かりづらく、手探りの状態からスタートした1年だったと思います。

そこで、課題が分からないのであれば、自分達で勝手に目標ではなく結果を決めよう。そして、しっかりと青年会議所のメンバーとして、明るい豊かな社会のためにがむ

しゃらに努力をしようという想いを込めて、「止まない雨はない～結果を決めて、皆で帳尻～」というスローガンを掲げ、運動を展開して参りました。

対面での事業や定例会が復活し、変化が激しい1年であり、メンバーの1人でも欠けていたら、もしかしたら大きくつまずく可能性のあった1年だったと思います。

今この振り返りの原稿を書き出している際も、一つひとつの出来事が鮮明に思い出されます。改めて、共に歩んでくださったメンバーの皆様から感謝申し上げます。ありがとうございました。

2022年度ピックアップ事業

◆国際交流事業 世界をもっと知ろう ～new discovery～

2021年からの継続事業としてJoint Project2021 to 2022を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航制限が継続していたため、当会のみで、国際交流事業を行いました。

大阪府下の高校生がNASA職員・WHO職員・元海兵隊政治顧問・元国連大使・在日ビルマロヒンギャ協会副会長の講演を聞いた上で、SDGsのGOALを1つ選定し、解決策を立案し、啓発啓蒙活動を行いました。広島原爆投下日である8月6日に国連訓練調査研究所広島事務所で開催された活動を行うとともに、国際平和に関する国連フォーラムにも参加しました。帰阪後、吉村大阪府知事や後藤吹田市長を訪問し、また参加した学生の各学校でも啓発啓蒙活動を行いました。学生達が、人間関係の繋がりの大切さを知り、将来の方向性を決めるきっかけとなった事業でした。

◆青少年育成事業 登ることで感じる事が出来る～日本一の目標に向かって皆でゴールしよう～

久方ぶりに対面で実施した児童青少年健全育成事業では、19名の小中学生と富士登山を行いました。将来の夢や目標を持っている小中学生が年々減少しており、身近に夢や目標となる大人・信用できる大人がいないという衝撃的な調査結果をうけ、子ども達に高い目標を定め、挑戦することの大切さや夢や希望を持ち達成することの大切さを学んで欲しいと、日本一の山、富士山に登る本事業が実施されました。

お互いを鼓舞し、疲れても決して下を向かずに登る子ども達の姿は素晴らしいものでした。見知らぬ大人と励まし合いながら大きな目標を経験は達成する経験は誰もが経験できるのではなく、事業後の調査で、子ども達に前向きな変化があったと多くの回答をいただきました。



定例会		事業
1月	新年賀会定例会	
2月	「価値」を伝える力	
3月	リーダーに必要な伝える力 心を動かすコミュニケーション術	
4月	地域コミュニティを創造する	
5月	8LOM合同例会 Why Japanese 青年経済 People ! ?	5月26日～29日 JCI ASPAC堺高石大会
6月	こども心を読み取る	6月4日 わんぱく相撲 吹田場所
7月	株式会社ガンバ大阪の30年におけるホームタウン活動と今後の展望・防災設備ツアー	7月2日～3日 近畿地区大会高槻大会 7月27日～29日 青少年育成事業 登ることで感じる事が出来る ～日本一の目標に向かって皆でゴールしよう～
8月	まちの未来をデザインする ～吹田版SDGsの構築～	8月6日～7日 国際交流事業 世界をもっと知ろう ～new discovery～
9月	OBOG合同定例会	9月4日 すいたフェスタ協力
10月	4LOM合同例会 人を巻き込む力 ～地域に必要とされるリーダーとなるために～	
11月	車いすバス体験会	
12月	卒業式並びに褒章授与式	

歴
代
理
事
長



2023

第54代 理事長 森 俊弥

会員：34名 卒業生：8名



【Rethink～当たり前を問い直す～】をスローガンに掲げ1年間活動致しました。当たり前を問い直すとは、結果的に今の最善を会員みんなで考えることであり、過去の事実や現状、将来への予測を前提に価値観を擦り合わせていくことです。それは、世の中で必要とされる考え方であると同時に、2023年度の吹田青年会議所にも必要だと考えました。

また、私たちが吹田市を拠点に思う存分活動できるのは先輩の皆様がアクションを積み重ねてきた結果であり、当たり前に目の前にあるものではないことにも気づくことができました。会員の皆様も各々の役職の中でできることを

十二分に考え、各々の自主性の中で仮説を立て、1年間を通して挑戦を続けてくれました。

JCI若狭さんとの友好青年会議所協定に至る青少年健全育成事業や、定例会と事業を関連させることによって心と身体のバリアについて体感的に気づかせてくれたまちづくり事業、そして各定例会においても誇れる事業・定例会であったと胸を張って言えます。

既存の方法ではなく、既存の枠組みを生かし、可能性を広げようと奮闘する皆様と共に活動できたことはかけがえのない貴重な経験だと心から思います。

歴
代
理
事
長



2023年度ピックアップ事業

◆児童青少年育成事業「家から飛び出す3日間～The Camping Adventure～」

吹田市内と福井県若狭の小学生で、福井県で2泊3日の共同生活を行いました。共同生活の中で、各々が役割を担いながら社会生活が営まれていることや、他者と共生するためにどのような価値観や姿勢を持つべきかを考えてもらうことを目的として事業を開催しました。意見の衝突がありつつも、創意工夫し皆で協力しあう子ども達の成長を見ることができました。

本事業は（一社）若狭青年会議所に多大なる協力をいただき、事業後には友好青年会議所を協定しました。

会員にとっても子どもたちの成長を通して多くの学びを深めることができました。また、（一社）若狭青年会議所との協同を経て青年会議所運動の可能性を感じることができたと思います。本事業は、他の青年会議所との協同が高く評価され、大阪ブロック協議会の褒賞、青少年育成部門にて最優秀賞を受賞しました。

◆10月度定例会(4LOM合同例会)

吹田主管で4LOM合同定例会を行いました。従来、講師講演を中心とした定例会を設けていましたが、大きく手法を変え、千里中央公園にてフェスティバルを設営する中で、まちづくり運動について学ぶ定例会としました。実行委員会を中心に体験型ブースを設営したり、キッチンカーを誘致して飲食ブースを設営したり、ステージにてダンスパフォーマンスやクイズ大会を行いました。

当日は3000人以上という予想を超えた多くの市民に会場いただき、大盛況となりました。

例年とは異なる設えであることから、池田・箕面・豊中の各メンバーは戸惑うところも多かったとは思いますが、例年以上に様々なご協力をいただき、改めて4LOMの結束力を感じることができた定例会でした。

定例会		事業
1月	新年賀会定例会	
2月	運動を起こすのはあなたの行動から	
3月	誰もが暮らしやすいまちづくりを	
4月	(公開討論会と同日実施)	4月14日 吹田市長選に伴う公開討論会～つなげ、ええまちすいた～ 4月16日 わんぱく相撲 吹田場所
5月	8LOM合同例会 世界最高齢プログラマーから学ぶ未来を切り開く人材	
6月	JC ゲーム～理事長に俺はなる！～	
7月	目標を叶える習慣を学ぼう(7つの習慣ボードゲーム)	7月28日～30日 青少年育成事業「家から飛び出す3日間～The Camping Adventure～」
8月	荒波を乗り越えろ！新時代へ	
9月	OBOG合同定例会	9月3日 すいたフェスタ協力
10月	4LOM合同例会 派手に化けろ～お菓子なパーティー～(ハロウィンフェス)	10月1日 大阪ブロック大会豊中大会「[Play the Dream]～飛び立て！誰もが夢を奏でる世界都市大阪へ～」 10月15日 まちづくり事業「今日から友達な！～認め合い、助け合おう！！～」
11月	新たな時代～生成AIの知識を深めよう～	
12月	卒業式並びに褒章授与式	

60周年に向けた中長期ビジョン

(2023年12月理事会 採択)

新たなる希望 ～create the future～

吹田を誇り、自慢できる
吹田のまちでヒト・モノ・コトがつながり、
助け合い、吹田オリジナルの
まちを加速させる
今あるものだけを見るのではなく、
吹田の未来を想像し、
そこから逆算して行動を起こす
その為に、我々が中心となり
「修練・奉仕・友情」の三信条の元、
責任と自覚を持ち率先して行動する

3つの軸

【未来を創造する人財育成】

- ・夢を語れる人財の育成
- ・夢を叶えられる環境の整備
- ・最新の技術を積極的に取り入れる

【過去から学び、未来を予測したまちづくり】

- ・未来予測から逆算したまちづくり
- ・ICTを積極活用した持続可能なまちづくり
- ・点ではなく面で支え合うまちづくり

【団体との連携強化】

- ・吹田市内の地域団体との交流強化でまちづくりを加速させる
- ・近隣LOM、友好LOMとの交流強化
- ・国際交流の促進

「第50代から第54代 歴代理事長対談」

型コロナウイルス感染症の影響があったかと思いますが、いかがでしたか？

柳川 対面での定例会開催は2・3回程度しか行えませんが、全員がWebを使った委員会・例会に慣れてきて、対応力がついてきた印象でした。定例会出席率が80パーセントを超えて、メンバーのやる気を感じました。また、Webを使ってJCIOceanとの国際交流事業も行いました。

司会 青年会議所の事業はどうでしたか？

柳川 児童青少年健全育成事業として、EXPOCITY内にあった国内最大級のeスポーツ体験施設「REDEE（レディー）」で子どもたちを集めて正しいネットコミュニケーションを教える機会を考えていました。

杉本 オンラインゲーム内でネットスラング（ネット上の掲示板や動画コメント欄でのみ使用されている共通理解語）を正しく理解せずに使用している子どもたちが問題となっていました。ゲームを止めるのではなく、正しい知識を学んでほしいという趣旨で校長会にも出向き、必要性を訴えかけました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大で結果実現はできませんでした。

柳川 メンバーみんなが、すごいスピードで事業に対して準備等行ってくれました。結果としては、開催することはできなかったけれど、一体感を感じることができました。

司会 翌年の杉本理事長の年度ではよく対面での活動も増えてきましたが、対面に戻るにあたってどのようなことに気を遣われましたか？

杉本 次年度段階はWebで、1月から久しぶりに対面となりました。森君の「当たり前を問い直す」というスローガンがありますが、私にとっては「当たり前を思い出す」年でした。

小川 理事会とかでも、ここで起立する？と思いつくところから始まりました。

杉本 2022年時点で、入会3年未満の会員が47%ですので、半分の方は対面の理事会・定例会をほぼ知りません。それこそ、初めて対面で会うメンバーも沢山いました。

小川 対面のない2年間も、JC活動や理念の浸透に力を入れていたからこそ、

すぐ感覚が戻ってきました。

杉本 この年は富士登山の事業がありました。私は児童青少年健全育成事業というものを、まだ知らないメンバーに示したい気持ちがあり、賛同しました。今までの空気を変えたい、払拭したいという気持ちがあった1年でした。

小川 他には、Webだから交通費がからない分、費用を抑えて普段依頼できない講師に依頼できたり、遠方の方も忙しい方も合間をぬって対応くださったり、Webによる活動の広がりがありました。

司会 昨年の森年度では、年度途中で新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、様々な活動が再開するにあたり大変だった点はありませんか？

森 各国の新型コロナウイルス感染症に対する基準のキャッチアップに苦労しました。都度可否を確認しながら、自分たちのスケジュールを調整することが難しかった印象です。

とはいえ、実質的に前年度からほぼ自由に活動ができていたので、名実ともに日常に戻ってきました。

ただ、コミュニケーションの量の問題なのか、前は普通にできていたのに、今はできない部分があることに気づきました。だからこそ以前を知る人がちゃんと伝えていかなくてはいけないという課題を1年間意識し、2024年度にスムーズに移行したいと考えていました。

行動制限がなくとも定例会のWeb参加を認めようという意見も出ました。正直、私は本質を考えた際に対面出席すべきだと考えていたんです。でも「当たり前を問い直す」という銘を打つからには、やってみようと思いました。結局Webは続いている

ませんが、チャレンジしたことは良かったと考えています。その他にも規則の細かい部分を定款には触れない程度に、現代の状況に合わせて修正するなどできたのもよかったです。

岡田 55周年に向けてどういう取り組みをしていくべきかということについて、次年度段階の正副会議で話し合っていたときに挙げていたもの一つに防災を意識した国内LOM（各地にある青年会議所）との関係締結がありました。それを実行に移して5年越しに実現してくれて、ビジョンをきちんと繋いでくれたということが卒業した身として、本当にうれしかったですね。

森 50周年の時に話が挙がったと思うのですが、ずっと頭に残っていました。地震大国ですから万が一どちらかが被災した時に助けあえるよう、日本海側のLOMと提携を結びたかったのです。

司会 最後に、現役・未来のメンバーたちへ何かありますか？

岡田 周年の年は締めと始まりの年です。しっかりと5年先を見据えて、この先どうしたいのか、そのためには何する必要があるのか、短期と長期の計画をたてて行動してほしいと思います。

小川 JC活動の中では大変なこともたくさんあるけれど、そこで養われた能力や行動力は他の機会に活かせることも多いので、ぜひ頑張ってください。

杉本 入会して色々な人に出会い、関わり合えることでJC人生が楽しくなるので、どんどん積極的に参加してほしいですね。





けにとどまらず、たくさんの方の成長の機会を提供できる組織になれば、当会の発展につながるかと考えての開催であったため、この目的が達成できるように動きました。

杉本 出向の熱を帯び、出向に対して前向きな空気が流れたのはあの年からだと感じています。

森 当会の中だけでなく、外に目角けるきっかけになりました。

岡田 当時は希望する人が1人で出向しているイメージでしたから。

杉本 僕もあの時にJ・C人生が変わったと思っています。出向は楽しいのはもちろん、吹田だけだと知らないこと、出向先やそれぞれのLOMの考え方が色々あって、それがすごく勉強になったと感じています。

司会 印象的な出来事として、50周年式典が千里山交番警察官襲撃事件により延期となりましたが、その背景は？

岡田 式典当日の朝、起床後すぐに千里山交番の警察官が銃で襲撃されたというニュースが入りました。

中止の決断にあたって最も大きな部分は、犯人が銃をもって逃走していて犯行の目的、所在も不明という中で、ご参加いただく皆様の安全を確保できないことが一番でした。万が一があつてはならないし、そしてまちづくりについての想いを語り、ビジョンを発信するのに(式典開催の目的に)そぐわないかと考え、副理事長、専務にその考えを伝え賛同してもらったので、ま

森 早い段階で迷わず決断したのが

良かったと思います。

岡田 中止決定後は、すでに会場入りしていたメンバーが迅速に動いてくれて、とても助かりました。

ホテルのご厚意でキャンセル料がかかるところを、青年会議所の皆様にはこれまでお世話になっているので、免除していただけたこともあり、改めての開催に向けて動き始めやすかったです。

杉本 感動したのは延期した日程が8LOMの親睦日程と重なっていましたが、8LOMが吹田の式典日程を優先してくれ、改めてJ・Cのつながりを感じました。

司会 翌年小川理事長の年度から新型コロナウイルス感染症が広がりましたが、青年会議所活動はどのような影響を受けましたでしょうか？

小川 3月頃から感染が爆発的に拡大したことで、対面での例会が困難になりました。中止にしたものもありましたが、Web(Zoomなど)の開催に切り替えていきました。

杉本 日々変わる社会情勢に合わせて、何度も議案を書き換え、中止・延期・Webのいずれにするか、緊急事態宣言の有無等を踏まえた判断基準等、沢山のバリエーションを想定して、本当に大変だったことが記憶に残っています。

小川 Webだからこそできた海外との定例会や、国内の各地のLOMと交流を行うことができたのは良かったです。

当時の社会情勢の中で、青年会議所としてどのような活動を行ったのでしょうか？



小川 吹田市長・吹田市から教育タブレットの普及率についてご相談をいただきました。そこで、事業として個人や他の団体にタブレットの寄贈を依頼しました。ただ最終的に均等に配布が困難なことから換金し寄附という形になりました。その他には生花事業もしました。

森 本来事業計画になかったことではありますが、小川理事長はじめ、メンバーが賛同してくれて、農水省の補助金制度を利用して、感染症拡大で売り上げが落ち込んでいた日本全国の花農家から花を買取り、吹田市の保育園・幼稚園・小学校に約15,000本の生花を寄贈しました。数えきれないほどのお礼のお手紙もいただきました。

小川 元々予定にはなかったけれど、今振り返ってもとても良い事業でした。

司会 翌年の柳川年度でも引き続き新

司会 本日は50、54代の歴代理事長に集まってもらいました。皆様よろしくお願

一同 よろしくお願いたします。

まずは岡田先輩、50周年という節目の年に理事長をされていかがでしたか？

岡田 50周年の理事長に限られたことではないかもしれませんが、これまでの活動に対する感謝と、より多くの方々へ当会の想いや活動を発信し理解共感を得られるよう意識して活動しました。

また、この年は、大阪ブロック大会の主管も担わせていただいたのですが、大会主管の獲得は、当時、当会の出向希望者が減少傾向にあったため、この機会を利用し出向希望者の増加と出向によるLOMの活性化が立候補時から狙いでした。当会の中



対談「(一社)若狭青年会議所との友好青年会議所協定締結について」



ことで制限がかりすぎて活動自体がやりにくいものになるのではという意見もありましたね。そんな中、友好協定という形で豊岡JCIとの違いを出すことで双方に配慮し、また細かく決め過ぎず、双方話し合いながら付き合っていくという形を導き出し、一つ一つの懸念点をつぶすことで、みんなに納得いただきました。

森 災害協定の話がでしたが、私としては、地震大国の日本において、プレートが違う地域、要するにどちらかに震災があったとしても、もう片方はそれほど被害の出ないような立地の地域と協定を結ぶことで、どちらかに何かあってもサポートし合えるような関係があればあるほど安心につながるであろうと考えていました。吹田JCIとしてはお互いの関係を構築し地域のためになることを前提にしつつも、有事の時に協力し合えるということを重要視していました。

渡辺 他の青年会議所の友好青年会議所協定の文章を集めてはいたのですが、災害についての記載が元からあるところがなかったんです。こちらからの強い意向で若

狭JCIに災害協定の提案をさせていただきました。

梶鼻 実は豊岡JCIと姉妹協定を結んでいる中に、私たちは災害協定をしっかり記載させていただいております。豊岡地域は若狭で原発事故があった時の避難先に指定されているという背景もありました。その中で吹田JCIとさらに協定を結ぶのに少し重い印象を受けたため、検討しました。最終的にはやはり何かあった時に連携できるとよいと考え、いただいた文面に賛成させていただきました。

牛田 特に今年1月に令和6年能登半島地震が起きた際、入れておいてよかったと感じました。そもそも青年会議所は戦後の復興を目指して設立し、またそれこそが青年の仕事だと趣意書に掲げ、全国規模で活動してきました。そして戦後復興の後も災害の度に全国で活動しているわけじゃないですか。災害の時にそのネットワークを駆使して、全国の仲間が被災地に援助するということをしています。平時の活動はもちろん、やっぱり有事に力を発揮してこそJCIだと思えますし、そういった背景があるからこそ行政との連携もとれていることを考えると、今後もそういった関係を常に持ち続けることが大切であると感じました。

司会 最後に、この友好青年会議所協定が将来、それぞれの青年会議所にとってどういうものであってほしい、どのように発展してほしいなど、将来に向けての想いを聞かせてください。

牛田 今回の友好協定を結ぶにあたり、これからの可能性を広げるためにも固くしすぎず、今後の活動の足かせにならないことを意識しました。今後、時代やメン

バーの変化により色々な可能性を生み出し、その中で気取らずに一緒に楽しめる仲間が全国にいるというのが青年会議所活動の醍醐味の一つです。人の出会いは可能性であると考えています。その中で、県外の頼れる友達みたいな立ち位置ですと良い関係性が続き、一緒に向こうしよう、仕事しようといった色々な可能性をこれからのメンバーが発展させてくれると、私たちが協定を結んだ意義が出てくるのかなと思っています。

梶鼻 牛田理事長のおっしゃったことに同意すると共に、私個人として少し述べさせていただくと、白石先輩が計画した事業に参加してくれた子どもたちが大人になった時に、あの時こういうことがあったなど振り返り、その思い出が彼らにとって良いものとなり、また地域を、人の未来を考えると、そういった流れを作っていけたらと考えています。そういう事業ができるのが友好青年会議所の強みかなと思います。

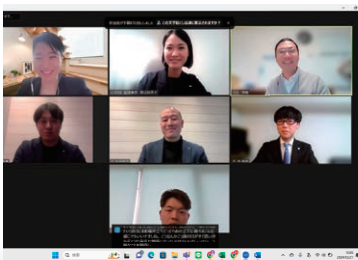
森 私たちは縁を結ぶというきっかけを創る役割で、これから先は今後のメンバーに任せていきたいですね。それをどう調理するかはその時々の人たちだと思うんです。その可能性を一つ後輩に残せたということが一番意義があると思っています。僕自身JCI活動10年目になるのですが、外に出ないとわからないことって沢山あるんですよ。初めて出向に行くとなった際には億劫かと思うのですが、府外の人と関係性があることによって、出向に前向きになるなど、遠方との関係だからこそその可能性があるなど、いろいろなことを残していきたいと考えています。

渡辺 このご縁を楽しんでほしいと考えています。私自身JCI活動歴は長いのですが、これまで知らなかった人たちが、団体

同士で仲良くなり、様々なことができるのだという青年会議所の可能性を感じた一年となりました。知恵や人が集まってくる、これがまさにJCIだということを感じています。

白石 吹田JCIは現在、国内で近隣青年会議所以外に定期的な交流のある青年会議所はないので、府外の青年会議所との交流というのはあまり見聞きしてきませんでした。ですので、JCIやJCI以外の部分でも身近な友人の一人として、福井に立ち寄ったり、何かという時に顔や名前が浮かぶような関係になればと思っています。個人的には、いつかまた一緒に事業ができるといういなと思っています。

牛田 最初にお伝えしたように、私は吹田JCIさんから連絡を受けた時にJCIバッジをつけている仲間として、という使命感や義務感のようなものでお話を伺いましたが、事業を進めていく中でお互いのことを知り、そしてどんどん楽しくなってきました。だからこそ今後も協力などの話があるかもしれないけれども、その時は最初から断ったり、及び腰になってしまったりするような対応を後輩にはしてほしくないと考えています。本当に、JCIバッジをつけている人たちはみんな仲間だよ、ぐらいいのスタンスでいていただけると、そこから新たな可能性が広がるのではないかなと思っています。



【参加者】※(内は事業実施当時の役職)

森俊弥(吹田青年会議所理事)

渡辺裕美子(吹田青年会議所専務理事)

白石琢磨(吹田青年会議所青少年育成委員会委員長)

牛田智淳(若狭青年会議所理事)

檜鼻貴博(若狭青年会議所専務理事)

2023年1月頃、吹田青年会議所の青少年育成委員会白石委員長から「自然が豊かな地に吹田の子どもたちを連れて行って現地の子どもたちと交流する事業をしたい」との発案があり、若狭青年会議所の名前が挙がりました。

全く「はじめまして」の状態だったものの、何度か双方の定例会に参加するなど交流を深め、一緒に児童青少年健全育成事業を実施するに至りました。その後、このご縁を一時的なもので終わらせたくないという想いから、友好青年会議所協定を結ぶ話が挙がり、2023年12月に無事友好青年会議所協定を締結するに至りました。

また、この事業は大阪ブロック協議会の青少年育成部門最優秀賞も受賞することができました。

司会 なぜ若狭青年会議所と吹田青年会議所が協力して児童青少年健全育成事業をするのに至ったのか、きっかけを教えてください。

白石 当時の青年青少年育成委員会で、どんな事業をするかという話を他のメンバーも交えて、何度も議論を重ねました。その結果、子どもたちに良い影響を与え、人生の糧になるような一生の思い出になるような事業をしたいという点にいき着き、「他者と共生することができると多様な価値観を身につける」という目的を設定しました。新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限で対面でのコミュニケーションの機会が減少し、価値観のズレなど色々な課題を感じていたからこそ、子どもたちが生

きていく中で、初めて会う人や異なる文化・背景を持つ人たちとコミュニケーションを取るが大変重要だと考えました。そこで折角なら、大阪の街中で暮らす子どもたちが県外の子どもたちと一緒に自分たちの力で共同生活を送ってもらいたいと考えました。吹田JICと同規模ぐらいで、雰囲気もよく距離的にも日帰りできるエリアで探している中で若狭JICを知ったので

森 実は遡って2019年から姉妹・友好などといった協定を日本海側の青年会議所の方と結びたいと模索していたんです。だからこそ白石委員長から話があった際に、今後のことも見据えながらご相談のお電話をさせていただきました。ただ、新年賀会定例会も終わり委員会や予算、内容も決まっている時期だったため、こんな時期に依頼するのは非常識だと百も承知しつつお願いだったのですが、牛田理事長からはみんなに聞いてみたいとわからないけれど、個人的には協力したいと最初のお電話の時点でいただき、なんて素敵な青年会議所なんだと主観的に感じていました。

牛田 最初にご連絡をいただいた時は、吹田JICについて何も知らなかったのですが、何事かと思ってお電話をとったことを覚えてます。同じJICバッジをつけている仲間だからこそ断るという選択肢はないと考えていたのですが、お互いの良いところはどこだろうと考え、まずは活動を知りたいと思いがら対応をさせていただきました。実際には予算と事業も決まっていたので、例え以外でなら取り組めるなど。その後は吹田JICのHPなどを調べ、普段からどんな活動をしているのかを拝見させていただき

檜鼻 実施までの時間も限られていま

したから、どれだけのことができるのか不安はありましたね。でもお互いの関係性を構築する中で、先ほど白石先輩がお話くださった「多様性」という部分にすごく共感しました。

司会 若狭JICの4月度定例会に吹田JICが、吹田JICの6月度定例会に若狭JICが参加し、その後7月に横浜で開催されたサマーコンファレンス*1での合同懇親会と、事業まで交流を重ねられたそうですが、それぞれ会での雰囲気・感触はいかがでしたか？

牛田 正直初めてお会いした時は、あそこまで盛り上がると思っていませんでした。しかし例会内でも活発に会話していただけでしたし、懇親会でも盛り上がったので、すごく感触がよかったです。

檜鼻 6月に吹田JICに伺った際も、皆さんと気が合い、一緒にやっていくことに楽しさを覚えたのが印象深かったです。

森 私たちは若狭JICに伺う時から盛り上がりつつあったので、このままのテンションで伺って大丈夫だろうかと考えていたのですが、皆さんが私たちを客人としてではなく、仲間として迎え入れてくださって、すごく温かい方々と感じたことが印象に残っています。

白石 初めてお会いした時から皆さん気さくで。私自身、実は他の青年会議所の例会に参加するのが初めてで、セレモニーも同じようでも違う部分などがあり、とても新鮮でした。でも回数を重ねていくうちに、とても近い空気感であることを感じていましたし、それは他のメンバーも同じだったようです。委員会としても安心して事業本番に向けて準備を進めること



*1:公益社団法人日本青年会議所の主催により、各界を代表する著名な有識者を招いて政治・経済・社会など様々なジャンルのフォーラム・セミナーを展開する、大規模コンベンション。毎年7月に横浜で開催し、各地青年会議所のメンバーが集まる。

ができましたし、そういった点でもお互いを知ること、本番もやりやすかったですね。

渡辺 当時吹田JICでは「若狭の方々とお会いできるならみんなで行くよ」とサマーコンファレンスをはじめ参加率もよく、当会全体の活性化がはかれたと感じています。

司会 事業後、友好青年会議所協定について話が挙がったとき、それぞれ会での感触はどうでしたか？

渡辺 吹田JIC側としては「一緒にやりたい」の一心でした。

森 そうそう、異論とかもなかったね。

牛田 私たちの方が慎重だったかも知れませんが、理事会などでは災害協定の内容や、すでに姉妹協定を結んでいた豊岡JICへの配慮もしっかりと考えていたと議論をしました。そこができないのであれば良くないと考えていたので。協定を締結する



副理事長
赤松 優希
赤松優希社会保険労務士事務所



吹田の魅力向上委員会 委員長
河村 大地
㈱カワムラ化工



吹田の魅力向上委員会 委員
足立 将一
㈱パクスジャポニカ



吹田の魅力向上委員会 委員
木下 裕貴
㈱あさひコーポレーション



会員拡大委員会 委員長
有澤 由真
吹田市議会議員



吹田の魅力向上委員会 副委員長
木村 未紗子
㈱force



専務理事
市川 怜
バスケットブルR



周年事業委員会 副委員長
小畑 貴浩
積水ハウス㈱



会員交流委員会 運営幹事
今村 良
Stock Fine



会員交流委員会 委員
小林 優
メットライフ生命保険㈱



会員交流委員会 委員
江口 礼四郎
吹田市議会議員



周年式典委員会 委員長
清水 優太
㈱バリューネットワーク



理事長
大枝 拓人
大枝印刷㈱



監事
杉本 慎一郎
千里土地㈱



会員交流委員会 委員長
太田 慎也
弁護士法人北浜法律事務所



会員交流委員会 委員
杉本 喬
弁護士法人淀屋橋・山上合同



周年式典委員会 副委員長
奥 明洋
千里オー克蘭ズ㈱



会員交流委員会 委員
鈴木 海斗
㈱丸西



副理事長
奥谷 康人
㈱SAKAE



周年事業委員会 委員長
関 俊平
gainlines㈱



周年事業委員会 委員
平 健 汰
(株)フラットプロ



周年事業委員会 運営幹事
邊 川 恵 美
えみ司法書士事務所



会員拡大委員会 副委員長
高 田 貴 士
摂津電気工事(株)



周年式典委員会 委員
水 江 周 平
(株)クール デリュミエール



会員交流委員会 委員
橋 本 将 大
(株)豊橋企画



会員交流委員会 委員
見 谷 麗
(株)LIVLA



会員交流委員会 副委員長
橋 本 佳 典
橋本建設(株)



周年事業委員会 委員
村 尾 拓 也
(株)ミックス・ジャパン



会員拡大委員会 委員
濱 田 悠 登
(株)ダイコク化成



直前理事長
森 俊 弥
moriya



会員拡大委員会 運営幹事
濱 中 加 鈴
Preqin合同会社/Preqin GK



監事
柳 川 潔 敬
(株)柳川工務店



会員交流委員会 委員
樋 野 慶 丈
鉄板グリルをかし



財務理事
山 口 弘 毅
プルデンシャル生命保険(株)



会員交流委員会 委員
百 武 盛 二
グラフワン(株)



副理事長
渡 辺 裕 美 子
とよなか千里中央法律事務所



会員交流委員会 委員
平 櫛 知 輝
大阪トヨペット(株)



吹田の魅力向上委員会 運営幹事
平 野 涼 子
住友生命保険(相)

編集後記

創立55周年記念誌を発刊するにあたり、直近5年間の運動を振り返りました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うあらゆる行動制限の中、我々の活動も一見すると止まってしまったようにも見えました。しかし、時代に柔軟に対応し、情勢に応じた運動を常に考え、次の時代を見据え、着々と準備し、日常が戻った後にさらに運動を加速させた一連の流れに、強く青年会議所活動の理念を感じることができました。

新型コロナウイルス感染症は社会、経済活動のあらゆる面において打撃を与えたものの、これをきっかけにICTの活用が急激に進み、Webでの会議や手続きが一般的となり、場所的・時間的制約が緩やかになり、人々の働き方、学び方、価値観が極めて多様化してきた5年間でした。人々が容易に大量のデータにアクセスでき、AIを日常的に利用できる現代において、我々を取り巻く環境の変化は、これからも加速度的に大きくなっていくことでしょう。我々青年会議所は、この時代の変化に取り残されることなく、変わっていくものと変わらないものの中で、中心となって希望ある明るい豊かな社会を実現していかなければなりません。

本誌が、この変化苦難の多き5年間を乗り越えた先輩方及び現役会員の思いを次に繋げる一助となれば幸いです。最後になりましたが、本誌の作成にあたり、ご協力、ご助言いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

公益社団法人吹田青年会議所 広報室

室長 市川 怜
 森 俊 弥
 赤松 優 希
 奥谷 康 人
 小林 優
 橋本 将 大
 邊川 恵 美
 見谷 麗
 渡辺 裕美子

デザイン・レイアウト・印刷

大枝印刷株式会社

〒564-0031 大阪府吹田市元町28番7号

TEL. 06-6381-3395

FAX. 06-6318-2000



